

地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 (1 1)

団体名	(認定)宝塚NPOセンター	代表者名	(職名) 理事長	(氏名) 中山 光子
事業名	もったいないをみんなで笑顔へ			

< 事業実施実績 >

年月日 <small>定例は「月1回」 「毎○曜日」等 で記入</small>	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
2025/5/27 ~ 2025/6/21	成福院・目見田商事・ 妙宝寺・宝塚NPOセン ター(宝塚NPOセンター のみ6/28まで)	食品他提供者 10名	食品・生活用品等の回収期間 回収量：約140.9kg その他企業：コープこうべ(KC宝塚・KC尼崎) ㈱ドンク
6月28日	宝塚市立男女共同参画 センターエル	ボランティア17名 スタッフ5名	食品・生活用品等の仕分け作業/配布会対応 (打ち合わせ等も含む)
6月28日	宝塚市立男女共同参画 センターエル	当日来訪者 48名	食品・生活用品等の配布会、相談ブースを設置 相談件数：0件(チラシを渡した方2名)
2025/7/29 ~ 2025/8/22	成福院・目見田商事・ 妙宝寺・宝塚芸術文化 センター・宝塚NPOセン ター(宝塚NPOセン ターのみ8/30まで)	食品他提供者 12名	食品・生活用品等の回収期間 回収量：約194.6kg 企業：コープこうべ(KC宝塚・KC尼崎)㈱ドンク 極東メタリコン工業㈱・住友ゴムCSR事務局
8月30日	宝塚市立男女共同参画 センターエル	ボランティア15名 スタッフ5名	食品・生活用品等の仕分け作業/配布会 (打ち合わせ等も含む)
8月30日	宝塚市立男女共同参画 センターエル	当日来訪者 41名(子供6名含む)	食品・生活用品等の配布会、相談ブースを設置 相談件数：1件(チラシを渡した方1名)
9/30 ~ 10/25	成福院・目見田商事・ 妙宝寺・宝塚芸術文化 センター・宝塚NPOセン ター (宝塚NPOセンターのみ 10/29まで)	食品他提供者 11名	食品・生活用品等の回収期間 回収量：約133.2kg 企業：コープこうべ(KC宝塚・KC尼崎)・㈱ドンク 一般社団法人「食deつながる」
10月29日	宝塚市立男女共同参画 センターエル	ボランティア17名 スタッフ5名	食品・生活用品等の仕分け作業 (打ち合わせ等も含む)
10月29日	宝塚市立男女共同参画 センターエル	当日来訪者 32名	食品・生活用品等の配布会、相談ブースを設置 相談件数：0件 (袋詰めでの渡し方に変更 40名限定)
2025/12/1 ~ 2025/12/20	成福院・目見田商事・ 妙宝寺・宝塚芸術文化 センター・宝塚NPOセン ター (宝塚NPOセンターのみ 10/24まで)	食品他提供者 14名	食品・生活用品等の回収期間 回収量：約68kg 企業：コープこうべ(KC宝塚・KC尼崎)・㈱ドンク 三井住友海上保険㈱
12月24日	宝塚市立男女共同参画 センターエル	ボランティア13名 スタッフ5名	食品・生活用品等の仕分け作業 (打ち合わせ等も含む)
12月24日	宝塚市立男女共同参画 センターエル	当日来訪者 38名	食品・生活用品等の配布会、相談ブースを設置 相談件数：2件

<効果と成果>

本年度は「支え合いの仕組みづくり」と担い手の創出に注力しました。企業・団体連携では、HP等の発信を見て食品を持参する市民が着実に増えたほか、繋がりのある住友ゴム工業（株）様より衣類、三井住友海上火災保険（株）様より今年も食品を寄贈頂きました。またコープこうべ様より冷蔵品の提供を受け、配布会だけでなく市内外の子ども食堂やグループホームへも配布するなど広域な支援のネットワークを構築しました。伊丹市の一般社団法人「食deつながる」様と合意書を締結し、大量の食品提供を受けたことも大きな進展です。延べ50名以上のボランティアの方参加され、今後も継続的に参加を希望されています。SNSやチラシ、紹介をきっかけとした自発的な参加が増えており、担い手が少しずつ育っています。来場者が進んで感謝を綴った「メッセージカード」は支援を可視化し、温かな交流を促す一歩となりました。配布会では生活困窮者、また子育て層の相談に対し、専門窓口へ繋ぐ重層的な支援も実施しました。単なる物資配布に留まらず、孤立を防ぎ地域で支え合うセーフティネットの役割を果たしたことが本年度の成果です。

<今後の展望>

今後は、配布会の運営改善と中間支援機能の強化を軸に事業を進めていきます。現場の課題である行列や不公平感を解消するため「必要としている方に届けたい」という原点を大切にしながら、不公平感を解消し誰もが気持ちよく参加できるルール作りを進めます。社会福祉協議会との連携については役割の違いをふまえ、最善の協力体制を検討し、当法人が「個人への支援と相談の窓口」として、必要に応じて専門支援へ繋ぐ役割を担います。中間支援としてはハブ機能を活かし、子ども食堂等への食材供給に加え、新たな活動団体の発掘やノウハウ共有といった伴走支援にも力を入れ、地域に協力の輪を広げていきます。本助成金が最終年度となるため、企業協賛の募り方や広報活動のあり方をさらに工夫し、助成金に頼りすぎず活動を長く続けるための自律的な仕組みの構築を目指します。これまで築いてきた基盤を活かし、地域資源で活動を支え合う形を進めます。本事業を単なる食品配布に留めず、生活困窮をはじめとする様々な困難を抱える方が、社会とのつながりを取り戻すための大切なセーフティネットとして役割を担い、地域全体で支え合う持続可能な仕組みの確立を視野に入れ、活動を継続してまいります。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動NPO事業助成金	434,000
自己資金等	4,885
合 計	438,885

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直 接 経 費	委託費	60,562	60,562
	印刷費	23,380	23,380
	賃借料・会場使用料	155,180	150,295
	その他（通信費等）	70,208	70,208
	小 計	309,330	304,445
間接経費（一般管理費）		129,555	129,555
合 計		438,885	434,000